

いわて鳥獣保護センター通信 第13号

(発行日:平成30年10月23日)



テングコウモリ



イワツバメ



ニホンリス



チョウゲンボウ

毎年このことから、今年も春先から幼鳥の保護が立て込み、夏を迎えるとコウモリの幼獣も来て、センターはまるで保育園の様相を呈していました。3時間おきに哺育をし、ときには自宅に持ち帰って晩と翌早朝に餌をやるといった時間を過ごしながら、自分の母親の偉大さを知るとともに、どんなに一生懸命やってもその動物の親のようにには子供の変化を察してやることも、独り立ちに向けて学ばべきことを教えてやることもできないに至らなさも同時に感じます。

そんなバタバタとした時期が過ぎ、ひと段落したときに、去年はもつと動物がたくさん来てたよな。」と毎年思うのです。昭和46年に岩手県に鳥獣保護センターが開設され、今年で47年目となります。保護収容される動物の数は、有害鳥獣の保護を行わなくなった平成26年以降年々減少し、平成25年は183件だったものが、昨年度は72件にまで減少しています。

これまで、野生鳥獣愛護の観点から、人間の社会活動の被害者として交通事故や中毒などにより傷ついた野生動物を治療・野生復帰するといった、いわゆる個体救護を行ってきました。その当時の保護の目的は野生鳥獣愛護思想の普及でありましたが、この47年の間に、その目的は、実効性のある生物多様性の保全・個体群の保護管理へと徐々に発展してきました。『実効性のある』とは、つまり計画的かつ科学的な保護・管理のことです。そういった目的の変化の中で、鳥獣保護センターが担っていく役割自体も当然変化していかなくてはならないでしょう。鳥獣保護センターも、求められる目的に対しての成果が見える施設へと変化していく必要性を感じる今日この頃です。

岩手県鳥獣保護センターは、課題の解決と生物多様性の保全に貢献する施設としての機能強化を図るため、施設整備についての検討を進めてまいります。



リス4兄妹ものがたり



4月中旬、二ホンリスの巣が持ち込まれました。細く薄く裂かれた木材が複雑に編み込まれた直径50cm、厚さ20cmほどのフカフカな円形の巣。その中にオス3頭、メス1頭の兄妹が寝ていました。生後4週間くらいでしょうか、眼もまだ開いていません。宅地造成のために、巣のあった高木とその周辺の木々が伐採され、巣は落下してしまったそうです。巣を発見した方は『巣を戻せる木がない。親は逃げた』と話していました。

さあ！にわかリス父さんリス母さんの出番です！数時間おきに猫ミルクを注射器で飲ませます。誤嚥しないよう慎重に慎重に。4頭飲ませ終わると、もう次の授乳時間！なんてことも。徐々に固形の食べ物へ移行し、リンゴ、小松菜、とうもろこし、カボチャ、ブドウ、ニンジン、サツマイモなど、できる限り多くの種類を食べさせました。おなかをこわすこともなく、スクスク成長してくれました。

5月後半、センター内のリスのおうちに外と行き来できる小さな出入口を作りました。2週間くらいは出たり入ったり。夜は4頭ともおうちに帰ってきて身を寄せ合って寝て、朝それぞれご出勤。日中も何度か置き餌を食べに戻ってくる、その繰り返しでしたが、だんだん頻度は少なくなっていました。6月初旬、だれもおうちには戻ってこなくなりました。4頭とも自然に帰ったのです。



人間の都合により生まれて早々に親と引き離されてしまった4兄妹。でも、彼らは実にたくましく育ち、自分たちの意志で自然に帰って行きました。彼らと過ごした1か月半。授乳で寝不足にもなりましたが、貴重な体験をたくさんさせてもらいました。本当にかげがえのない時間でした。

この仕事をしている私たちにとって放鳥獣が最高のご褒美です。でも、送り出すとき少なからず心配や不安を感じます。私たちの手を離れたあとは、彼らは野生動物としてひとりで生きていかなければなりません。それでも私たちは動物たちのたくましい生命力を信じて、彼らが本来生きるべき自然へ送り出します。ただただ彼らのしあわせを祈りながら…。





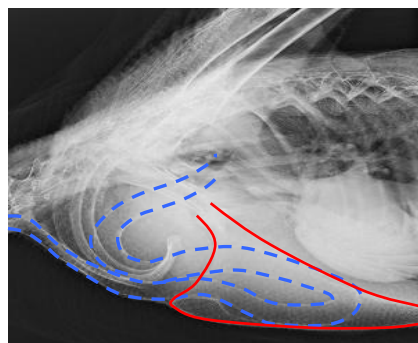
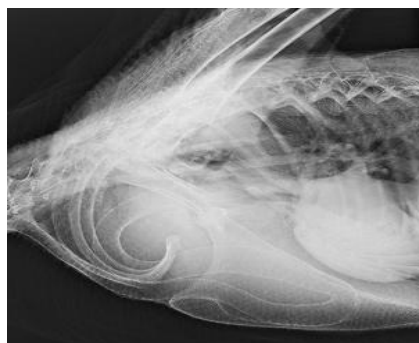
動物の不思議

ハクチョウの気管

空を飛ぶ鳥類には、発達した胸筋を支えるために胸骨の中心部を縦に走る突起があります。この突起は、船の竜骨（船の底を船首から船尾に走る骨組み）とよく似ていることから竜骨突起と呼ばれています。ハクチョウは、その竜骨突起がさらに特徴的で、首を下降した気管がそのまま胸腔には入らず、一旦竜骨突起の中に入り込んで、S字にカーブを描きながら胸腔へと入っていきます。このような形状だと、鳴き声がホルンなどの管楽器のように反響してより大きな音になるのです。

冬になると頭上から聞こえてくる大きな鳴き声で空を渡るハクチョウに気付くことがありますよね。そんなときには、ハクチョウの奇妙に曲がりくねった気管のことを思い出してみてください。

鳥の骨格図



青：気管 赤：竜骨突起



センターお仕事日記

「ミッション・インポッシブル!?!」

民家前の道路でぐったりして動かない、ということで搬送されてきたオオコノハズク。外傷もなく骨折等も見られない、しかし衰弱しているのか元気がないようでした。その日は、様子を見るということで、ダンボールにオオコノハズクをいれ帰宅しました。

次の日、出勤して一番に様子を見ようと箱を開けたところ驚くことになりました。

「オオコノハズクがいない！箱もちゃんと閉まっているのになぜ!?!」

逃げたとしても処置室の中だけ、棚の上や天井付近を探すも見つかりません、床にはフンが数箇所落ちています、確かに脱走はしているようですがなかなか見つかりません。

一旦落ち着こうと、もう一度箱の中を見ようとしゃがみこんだ時、目の前の洗面器スタンドの足に掴まり周りの風景に溶け込むように静かに寝ているオオコノハズクを発見しました。

恐らく、夜に目を覚ました時、居心地が悪かったのでしょう。スパイ映画の主人公のように逃げた痕跡を残さず華麗に箱を抜け出し、処置室を飛び回り、安住の地を求めていた所に洗面スタンドにたどり着く、そして人間に気づかれぬよう擬態したかはわかりませんが、その場で風景に溶け込むように眠りについたのでしょう。

見事な脱走劇に脱帽もの、まさに灯台下暗しでした。

今回のオオコノハズクのようにフクロウなどの夜行性の鳥は、昼間に寝ているので一見ボーッとされていて、元気がないように見えます。むやみに近づいたり触れたりせず見守ってください。最悪、攻撃され大怪我をすることもあるので注意が必要です。



【傷ついた野生鳥獣の受け入れについて】

- ◆ けがや病気などで弱っている動物を見つけたら、むやみに手を触れず、動き回る元気があればそっと様子を見守ってください。
- ◆ けがや衰弱のため動けないようであれば、まずは、お近くの広域振興局へ連絡をお願いします。鳥獣保護センターの職員が、直接救護に向かうことはありません。

担当部署	担当地域	連絡先
盛岡広域振興局保健福祉環境部	盛岡市、八幡平市、岩手町、雫石町、葛巻町、紫波町、矢巾町、滝沢市	019-629-6563
県南広域振興局保健福祉環境部	奥州市、金ケ崎町	0197-48-2422
県南広域振興局保健福祉環境部 花巻保健福祉環境センター	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	0198-22-4921
県南広域振興局保健福祉環境部 一関保健福祉環境センター	一関市、平泉町	0191-26-1412
沿岸広域振興局保健福祉環境部	釜石市、大槌町	0193-27-5523
沿岸広域振興局保健福祉環境部 宮古保健福祉環境センター	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	0193-64-2218
沿岸広域振興局保健福祉環境部 大船渡保健福祉環境センター	大船渡市、陸前高田市、住田町	0192-27-9913
県北広域振興局保健福祉環境部	久慈市、洋野町、野田村、普代村	0194-53-4987
県北広域振興局保健福祉環境部 二戸保健福祉環境センター	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	0195-23-9202

- ◆ 以下の動物については、一部で農作物等への有害性が高く、捕獲され駆除が行われていることから救護の対象としていませんので御注意下さい。

鳥類：ハシブトガラス、ハシボソガラス、マガモ、カルガモ、キジバト、ドバト、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ニュウナイスズメ

獣類：ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、アナグマ、ハクビシン、キツネ、タヌキ、ノイヌ、ノネコ、ノウサギ、イタチ

【見学・研修について】

鳥獣保護センターの見学や研修、ボランティア活動などを希望される方は、所定の手続きが必要となりますので、岩手県環境生活部自然保護課（TEL:019-629-5371）までお問い合わせください。

岩手県鳥獣保護センター

休所日 年末年始（12月29日から1月3日）

開所時間 午前9時から午後5時

〒020-0605 岩手県滝沢市砂込390-29

TEL / FAX 019-688-4728

※動物の救護依頼については上記担当部署へ連絡してください

